

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470600418
法人名	伊勢温泉観光株式会社
事業所名	グループホーム にのみの家
所在地 (電話番号)	津市新家町1488-1 (電話) 059-254-1616

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 5 月 29 日(木)

【情報提供票より】 (H20年5月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 17人, 非常勤 8人, 常勤換算	21.4人

(2)建物概要

建物構造	RC 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円程度	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(5 月 10 日現在)

利用者人数	24 名	男性	4 名	女性	20 名	
要介護1	9 名	要介護2	6 名			
要介護3	7 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	1 名			
年齢	平均	81 歳	最低	63 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中浜胃腸科外科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地の広い農家や一般住宅が多い地域である。お寺に隣接し周辺の樹木や野菜、梨畑などに季節の変わりを感じる事が出来る閑静な所に位置して平成17年4月にオープンした鉄筋コンクリート3階建て3ユニット(各階毎)のグループホームである。暮らしを重視して内装は純木造、全館床暖房、車椅子で自由に移動可能な廊下、家具、調度品も家庭的であり各居室にはトイレ、洗面台、整理棚が設置されているなど落ち着き安心して暮らせる場になっている。職員は事業所の理念を熟知、共有しながら利用者一人ひとりがその人らしく暮らしていくために穏やかで熱心な介助支援が行なわれていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価での「取り組みを期待したい」項目の一部に改善が見られるが、今後もなお一層の前向きな意欲が望まれる。また今回の自己評価の「取り組んでいきたい内容」が全項目にわたって意欲が窺えるが、今一度優先順位を考え、サービスの質の向上を目指し具体的に真摯な取り組みが望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>管理者及び職員は評価の意義目的をよく理解している。今回の自己評価は、管理者及び各ユニットのチーフで共に検討し一つに纏めた。引き続き評価の意義目的を確認し実行され、サービスの質の向上に繋げていくことを期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>制度上義務づけられているが今だ実施に至っていない。事業所側の取り組み姿勢に努力が求められる。地域密着型サービスとして利用者地域の中で普通に暮らすうえで、地域住民の理解と支援を得るためにも早急に実施されることが望まれる。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>現在不満、苦情は出ていない。不満、苦情もサービスの質の確保、向上のための貴重な機会でもあると前向きにとらえ、家族と出来るだけ意思の疎通をはかり、意見等の引き出し吸い上げに工夫が望まれる。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は昨年末自治会に加入し廃品回収に協力、地域運動会にも参加した。自己評価で言われている地域住民を事業所へ招く(施設は狭く不可能とのこと)事だけではなく、事業所側から引き続き積極的に地域へ働きかけ、さらなる親交と連携を深めていくことが望まれる。</p>

2. 評価報告書

(■■■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	多年にわたり社会に貢献されてきた方々に、敬愛の精神で日々満足して暮らせるために手伝う意味の理念が掲げられている。	○	地域密着型サービスの役割を加えると共に家族、来訪者等にも分かり易いものにしようとして現在取り組んでいることなので期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は玄関に掲げてある理念を毎出勤時に確認し実践している。地域密着型サービスへの理解も周知している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年末自治会に加入、廃品回収に協力している。地域の運動会にも参加するなど極力交流に努めている。	○	地域密着型サービスとして引続き交流を行い、より一層の積極的な働きかけが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部評価、外部評価の意義目的は、よく理解されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いまだ実施されていない。	○	制度上義務付けされている。制度改正後期間も経過していることでもあり事業所側の取組み姿勢に努力が求められる。地域の理解と支援を得てサービスの質の向上に繋げるためにも早急に実施されることが望まれる。

		○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本部役員及び管理者を窓口として市町村担当者への報告と情報の提供を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
		○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の状況を報告し要望も聞きだすように努めている。又毎月「にのみ便り」を発行、担当職員はそれぞれ利用者毎の家族宛に個別状況を書き加え知らせている。同時に金銭出納帳コピーを添え郵送している。		
		○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。また管理者、職員は、出来るだけ家族の面会時に不満、苦情を引き出すように心掛けているが、これまでに苦情、不満は出ていない。	○	家族にとっては不満、苦情は言い難いものである。一方、不満、意見は、サービスの質の確保向上のための貴重な機会でもある。家族と出来るだけ意思の疎通をはかり意見等の引き出し、吸い上げ方法に工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響もよく理解し極力少なくするよう努めている。日常、職員は利用者全員に気配りをしながらも一応担当者は決められている。	○	家族アンケートでは異動についての報告は殆どないとの回答が大半である。職員の異動は事業所側の都合だけになっていないか？その度に利用者への影響に配慮しているか？今一度確認され、家族へも報告をされることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては法人本部が関与している。人員体制に余裕がないとのことで内外共に研修受講の機会は極端に少ない。先輩職員が後輩職員の指導に当たっている程度である。資格取得希望職員は個人的に啓発している。	○	運営者は、地域密着型サービスとして職員の質の確保、向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、計画的継続的な研修実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会への参加、系列グループホームとの交流を図りつつある。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には本人及び家族に来て貰い、事業所内で短時間でも過ごして貰い、職員はさりげない会話で雰囲気に馴染んでもらえるよう配慮している。</p>		
----	----	--	---	--	--

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、「利用者は人生の先輩」という考えを共有しながら穏やかな態度で接している。利用者から色々な場面で教わることが多いと話していた。</p>		
----	----	---	---	--	--

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の生活歴、日常会話や行動、利用者同士の話の中からも希望や意向をくみとる様に努めている。</p>		
----	----	---	--	--	--

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族、本人の希望、アセスメントを基に職員会議を開催し意見交換と検討により利用者個々の介護計画をつくりあげている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則3ヵ月毎に見直しを行なっている。日々状況の変化に気をつけ必要時にはその都度家族、本人とに相談のうえ変更することもある。</p>		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、買い物、病院、医療のリハビリ等その時々要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、事業所の協力医師とも関係を密にしている、何時でも適切な対応が出来る体制である。また協力医師にはユニット毎に毎月1回(全ユニットで3回)往診を受けるなど健康管理面での支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族、本人、医師とも相談の上、出来るだけの支援をする思いを持っているがターミナルケアまでの体制はない。家族には入所時にその旨説明し了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する事項、個人情報の保護に関する行為、言動はよく徹底している。各種書類の取り扱いも適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの生活習慣、希望、能力に応じた支援をしている。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食材、献立は業者に委託しているが、お誕生会などのイベント時は利用者の希望を取り入れ一緒につくる事にしている。会話を交え楽しい雰囲気ですべてしている、必要な利用者にはさりげなく支援をしている。	○	グループホームの特性をふまえて職員も一緒に食事を楽しむ工夫をされることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットとも日曜日を除き、風呂は毎日沸かしている。個々の利用者にとっては1日おき(月・水・金組、火・木・土組)の入浴になっている。時間帯も午後2時から4時としているが特に苦情等はない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の手入れ、家庭菜園、掃除、洗濯物たたみ、カラオケ、折り紙、漢字練習等々、一人ひとりの生活歴や力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩、希望に応じた買い物、外食、時には大型乗用車を利用しての日帰り旅行(伊勢神宮、菜花の里、渚まち等)を取り入れた支援をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を十分理解していて可能な限りかけないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の秋に職員と利用者で避難訓練を実施した。また防災設備設置会社の点検と同時に職員での非常通報訓練を行なった。	○	事業所は鉄筋コンクリート3階建て(内部は木造)である。昼夜を問わず非常事態を想定して定期的に意識の確認と訓練の実施が望まれる。消防署の協力を得た指導訓練も取り入れられることを期待する。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>カロリー、栄養バランスに配慮し食事の量、水分摂取量も詳細に記録しながらその人の状況に応じた支援をしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内は純木造、壁には手作りの作品や写真が飾られている。食堂つづきに畳スペースが設けられ、座敷机、テレビ、家具、調度品も家庭的である。全室床暖房設置、高台で窓越しの景色にも季節が感じられ居心地よく過ごせる空間である。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室にはトイレと洗面台、収納棚が設置されていて、広くはないが便利な設計である。机、テレビ、家族の写真等、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		